



# 校長だより

呉市立昭和西小学校長  
安宗 誠

## 西小と桜の深いご縁

校長の安宗 誠と申します。創立152年を迎える長い歴史と伝統のある学校に赴任させていただいて大変光栄に思います。創立152年と申しますと、明治6年の創立ということになります。学制が公布された明治5年の翌年には早々に創立されたということになりますから、現在、昭和地区にある小学校の中でもいちばん早く創立された小学校でもありますし、全国的にも当時の小学校教育の先駆けとしての役割も果たしていたにちがいありません。

ちょうど今、校内の桜が見頃を迎えております。そばに寄ってみますと、改めてその幹の太さに驚かされます。なかなかこれほどの立派なたたずまいの桜を見かけることはありません。本校の校章が桜の花であることとこれらの見事な桜の木は何か深いご縁があるのでは……。本校が目指す教育を桜の生き方に重ねているということを感じずにはられません。

桜にちなんだ私の大好きな短歌をご紹介します。

散ればこそ いとど桜は めでたけれ 浮世に何か 久しかるべき

詠み人知らず

直訳しますと、「散るからこそ ますます 桜はすばらしい。この世の中に久しく続くものなどあるだろうか？ありはしない。」となります。これをもっと深読みしてみますと、私なりには次のように解釈しています。

「せっかく咲いた桜の花があっという間に散ってしまうことを桜自身は嘆いているどころかやり切った達成感に浸っているのではないかとさえ思えてきます。夏の暑さに耐え、冬の凍える寒さを乗り切った1年間の頑張りが、いつときとは言え、人々までをも魅了する成果につながっているわけですから。花びらが散ってしまった後は、今度は若葉に変身して来年も見事な花を咲かせることを目指そうとしています。諸行無常とは言いながら、実はいただいた命を命ある限り精一杯生きようとしている桜についつい心ひかれてしまいます。」

本校が桜と深い関わりをもちながら教育を進めてきた歴史に私自身深い共感を覚えます。

令和7年4月1日

呉市立昭和西小学校長  
安宗 誠

